

時報

東京明治十七年一月十五日 火曜日 第五百五十九號 日曜日休刊 定價三錢

叙任賞勳

○明治十七年八月廿五日 會計三等軍吏正八位 遠藤 慎司
 ○明治十七年十二月廿五日 任砲兵少尉 小久保善之助 任歩兵少尉 小野山貞二郎
 足立 愛藏 大野 實一郎
 重見 熊雄 大井 有太郎
 津川 秀幹 内田 三郎
 早川 米作 今井 兼善
 松村 清人 馬場 廣四郎
 坂出 兎馬 花田 仲之助
 山崎 巖太郎 鍋島 忠備
 山崎 八郎 橋口 勇馬
 二宮 五十旗 深堀 實一郎
 石黒 千久之助 多田 捨馬
 川崎 雅次郎 中田 拾馬
 山田 記實 豊島 政位
 松石 安治 大杉 政東
 野口 坤之 丹羽 宗温
 林 太郎 近藤 末四郎
 明石 元二郎 橋爪 六郎
 須知 源次郎 赤壁 知精
 依田 昌分 小高 五郎八
 渡邊 台吾 寺家 和介
 川崎 四郎 小南 長知
 飯田 左門 立花 小一郎
 鍋崎 富三郎 杉浦 藤三郎
 山本 延身 河野 政次郎
 安藤 康水 相浦 多三郎
 任二等軍醫正 一等軍醫正七位勳五等 小松 維直
 任二等軍醫正 一等軍醫正七位勳五等 松井 順三
 ○明治十七年一月十二日 久原 躬弦
 任東京大學教授 高松 豊吉

時事新報

清佛真議ノ終局如何(昨日ノ續)
 第三〇佛國ハ清國ト關係スルニ自國ノ位置如何ナルベキ
 ヤ今此處同ヲ釋スルニハ予之ヲ分テ甲乙ノ別ヲ立テザル
 可ラズ即チ甲ニハ佛國ノ兵力、土本ノ糧食、器仗、鐵管并
 ニ兵備精銳ノ如何、乙ニハ佛國人民ノ精神并ニ清國ト交
 戰ヲ欲スルノ念慮ナリ蓋シ佛國ハ人ノ皆知ル如ク其
 有民主ノ國ナレバ斯レ大事件ノ成就ニ實ニ人民ガ政府ヲ
 維持贊成スルノ如何ニ由ルモノナレバ先テ佛國人民ノ輿論
 ナ知ルノ大切ナルベシ佛國ノ兵力糧食、器仗、兵ノ精銳
 ノ点ニ關シテハ別ニ多言ヲ要スル處ナク歐洲ノ史上ニ
 ア佛國ハ永ク實武國民ノ一ナリシ者ニテ唯近時日耳曼
 人ノ爲ニ敗北ヲ招キタルモ今實世界ニ最強國ノ一ナルヲ
 失ハズ故ニ佛國人民即チ政府人民同クナリテ協和一致シテ
 其心身ヲ清國トノ戰爭ニ委スルコトヲ一ニ決シテ
 ハ明々白々ナリテ清國ノ敗績ヲ待テ居ルモノナリ何
 人モ其心ニ信スル所ナリ今此ノ形勢ニテハ佛國ノ勝利
 ハ佛國人民ハ清國ト對シテ久キニ勝リテ居ルモノナリ
 スルヲ慮リテ戰ヲ開キ左程スルノ意無クハハ爾ノ事實ノ
 事ナラン蓋シ西洋諸國ノ人民ハ概シテ東洋諸國ノ強弱ヲ

詳ニスル者少シ而シテ此事佛國ノ人民ニ於テ殊ニ甚シト
 ス夫レ佛國ハ外ニ移住ヲ爲スニ非ズ其國外ニ在ル人商
 人モ其數ハ極テ少ナク西貢ハ佛ノ殖民地ナルニ其地ニ
 大商人トモ云ハルベキ多數ハ猶且ツ英獨二國ノ人ナリ
 トス抑彼ノ佛國人ハ自國ヲ防衛シテハ外國ト交戦スル
 モ此ニ由テ以テ武功ノ名譽ヲ擧グルニ足ル時ハ如何ニ勇
 卒猛士ヲ失フモ金銀貨幣ヲ損スルモ惜ミテ然レ共
 佛人ノ心ニ其偉業スル異端ノ清民ヲシテ己レノ子弟ヲ屠
 ラシメ又其子弟ヲ瀕死ノ地ニ瀕シ瘴疫ノ犯ス所トナリテ
 苦死セシムルカト思ヘバ爭アコレヲシテ久ク外ニ在ル
 ナ許サズ且又歐洲ニ隔在スル一國ニテ清國ト兵ヲ交
 フル時ハ其費用ハ頗ル莫大ニシテ歐陸ノ戰爭ヨリモ遙ニ
 多カラザルヲ得ズ故ニ予ハ以テ清佛ノ交戦若シ敷聞
 月ヲ論ニル時ハ佛國人ハ其費用ニ堪エズシテ自カラ屈ス
 ベシト夫レ現時佛國政事上ノ狀態ハ未ダ孰レトモ決定セ
 ズ故ニ今日ノ葛藤遂ニ推展シテ費用多キ戰爭ノ起ルニ立
 至ラバ清國事件ノ關係ヲ現在ノ佛國政府ニ反對ナル強政
 党ノ崛起スルハ期シテ待ツベキナリ既ニ佛國政府ハ今
 日ニテモ談判ノ遲滞ニ由テ大ニ混雜搖動ノ色アリ而シテ
 今日清國之ニ乘リ向テ故ヲ事ヲ接シセバ是實ニ最強ノ利
 器ナルベシ蓋シ一月ノ遲延ハ清國ニ取テ一戰勝ヲ得タル
 ト同功カ者ナラン故ニ今日ノ勢ニ際シテハ佛國ハ最早
 脚踏日ヲ曠クスルコト能ハズ夫レ或ハ急進派行キテ果斷
 ル舉動ニ及ブカ將テ或ハ斷然ニ之ヲ見弁テ敵ニ者強レニ
 カ決スル所ナカレ可ラズ然レモ清國ノ政略ハ尙緩慢主義
 ニシテ假令戰ニ臨ムモ且ツ挑ミ且走リ勉テ闘争ヲ永キニ
 巨ラシメテ必セリ是ニ於テ佛軍ハ久シク兵ヲ清國ノ南
 境ニ暴露セシメ獨リ征途ノ遠隔ニ苦テ其軍勢沮喪セシ
 トス故ニ予モ既ニ說示シタル如ク佛國ノ位置ハ曠日彌久
 悠々外戰ニ從事シ得ル者ニ非ザルベキナリ
 第四〇兩國交戦ノ場合ニ於テ他ノ列國ハ如何ナル舉動ヲ
 爲スベキヤ蓋シ此疑問ハ佛國ガ戰事ヲ爲スノ有様如何ニ
 由テ存スル者多カレバ佛國若シ獨リ東京地方ニ於テノ
 ミ兵ヲ擧セバ他ノ列國ハ深クモ該事ニ干渉スルノ斷アラ
 ズ然レドモ夫ノ清國ノ諸實業地ヲ攻擊シ其通商ヲ妨グ
 ルニ於テハ其關係スル所實ニ尠少ナラズ而シテ英國ハ殊
 ニ其利害ヲ感スルモノトス何トナレバ印度政府ガ清國ニ
 輸送スル阿片煙ヲ年々收入スル額入ハ七千五百萬ナリ
 然レモ一旦清佛交戦スルニ至レバ忽チ此輸入額減スレハ
 ナリ目下印度政府ノ財政要困ナラザル折此七千五百萬
 ノ輸入一時ニ其途ヲ絶シ印度ノ人民ニ稅款ヲ重課シ以テ
 其不足ヲ補ハル可ラザルニ當テハ印度政府ノ不便決シ
 テ尋常ナラズ蓋シ英人ガ印度稅額ノ困難ヲ感成スル
 ニ至ラバ英政府本國ガ清國ト互市通商ニ爲シ妨グベ

○皇子養内 明
 時有樂町の中山邸
 (皇子)供奉以中山
 及び女官數名に
 聖上皇居宮へ親
 山御所へも成ら
 宮には御體が
 給ひて一際御慶は
 從一位以下供奉の
 ○英土兩國の舉事
 英將領事マーチ
 はスウキム海へ
 し將に該府を押
 の英兵には邊境の
 し英兵の出發を
 艘の軍艦と紅海
 政府にて之土國
 と欲せ之英政府
 となり
 ○下賜品 岐阜縣
 學務要部等、宮
 ○檢査院事務規程
 事務規程を左の如
 院中審査部及び
 二任其局ハ院
 其事務規程ヲ定
 審査部
 第一條 審査部分
 二條 各部課ノ分
 ▲第三條 各部
 四條 部長ハ該部
 檢査官ヲ分任シ
 檢査官ノ名ヲ以
 對シ部長ノ名ヲ以
 對シ部長ノ名ヲ以
 ○第八條 決算ノ
 檢査上重要ノ事件
 九條 各廳提出檢
 第十條 本局ハ長
 條 局長ハ局中一
 中審査官ヨリ各
 ○第十三條 本局ハ
 トノ局長ヲ之ニ
 應官房ノ事務及
 年報編行事務及
 一審査官ノ受任
 十七條 記帳官ハ
 ノ保存ニ關スル
 用度事務ニ關ス

電報

○一月十一日龍動發 埃及政府はスウキム海を棄てざる
 と一決せり○埃及政府はカートウムの府の人民に同府を
 立退くべしと命じたり

雜報

○行幸 聖上には本日越中縣まで進行する第二期大東
 的會ハ行幸在せ給ふ旨昨日御出されたり
 ○行啓 皇宮に之来る二十日午前十時の御出門にて奉
 披爾吉町の華族從五位一德實親王の邸へ行啓在せ給ふ由
 に承る

FUJI MICRO SAFETY

○皇子養内 明
 時有樂町の中山邸
 (皇子)供奉以中山
 及び女官數名に
 聖上皇居宮へ親
 山御所へも成ら
 宮には御體が
 給ひて一際御慶は
 從一位以下供奉の
 ○英土兩國の舉事
 英將領事マーチ
 はスウキム海へ
 し將に該府を押
 の英兵には邊境の
 し英兵の出發を
 艘の軍艦と紅海
 政府にて之土國
 と欲せ之英政府
 となり
 ○下賜品 岐阜縣
 學務要部等、宮
 ○檢査院事務規程
 事務規程を左の如
 院中審査部及び
 二任其局ハ院
 其事務規程ヲ定
 審査部
 第一條 審査部分
 二條 各部課ノ分
 ▲第三條 各部
 四條 部長ハ該部
 檢査官ヲ分任シ
 檢査官ノ名ヲ以
 對シ部長ノ名ヲ以
 對シ部長ノ名ヲ以
 ○第八條 決算ノ
 檢査上重要ノ事件
 九條 各廳提出檢
 第十條 本局ハ長
 條 局長ハ局中一
 中審査官ヨリ各
 ○第十三條 本局ハ
 トノ局長ヲ之ニ
 應官房ノ事務及
 年報編行事務及
 一審査官ノ受任
 十七條 記帳官ハ
 ノ保存ニ關スル
 用度事務ニ關ス